

「JENESYS2.0」

2015 年度中国高校生訪日団 第 6 陣 B コース

訪問日程 2015 年 12 月 8 日（火）～ 12 月 16 日（水）

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した 2015 年度中国高校生訪日団第 6 陣 B コース計 123 名が、12 月 8 日から 12 月 16 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました（副団長＝黄作軍（ホアン ツオチュン）、湖南省株洲市教育局 体育衛生芸術科 科長）。

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は、日本各地を訪問し、環境保護・省エネルギーに関する視察を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、学校交流や、ホームビジット・民泊等を通じて、日本の高校生や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

12 月 8 日（火）

羽田国際空港より入国

12 月 9 日（水）

オリエンテーション

セミナー「エネルギー・環境とスマート・グリッド」

大学訪問（東京都市大学）

歓迎会

12 月 10 日（木）

第 1・2 分団：和歌山県へ移動、紀州漆器伝統産業会館見学（漆器蒔絵体験）

第 3 分団：大分県へ移動、大分ソーラーパワー視察

第 4 分団：香川県へ移動、金刀比羅宮見学

12 月 11 日（金）

第 1 分団：和歌の浦・紀州東照宮・和歌山城・黒潮市場見学

第 2 分団：和歌の浦・紀州東照宮見学、和歌山県立日高高等学校訪問・交流

第 3 分団：大分県立別府青山・別府翔青高等学校訪問・交流、海地獄（足湯体験）・府内城公園見学

第 4 分団：栗林公園見学、高松第一高等学校訪問・交流

（※第 1 分団：交流先高校が、暴風による休校となったため、学校訪問中止）

12 月 12 日（土）

第 1・2 分団：滋賀県へ移動、農家民泊

第 3 分団：湯布院周辺見学、福岡県へ移動、福岡市民防災センター視察

第4分団：農家・漁家民泊

12月13日（日）

第1・2分団：愛知県へ移動、水の歴史資料館視察、名古屋城見学

第3分団：太宰府天満宮見学、ホームビジット

第4分団：瀬戸大橋記念館・鷺羽山・倉敷美観地区見学

12月14日（月）

第1分団：名古屋市立名東高等学校訪問・交流、名古屋市立北高等学校訪問・交流、ワークショップ

第2分団：至学館高等学校訪問・交流、ワークショップ

第3分団：福岡市立福岡西陵高等学校訪問・交流、ワークショップ

第4分団：水島エコワークス視察、金光学園中学・高等学校訪問・交流、ワークショップ

12月15日（火）

東京へ移動、商業施設視察

歓送報告会

12月16日（水）

第4分団：浅草寺・仲見世通り商店街・皇居・二重橋見学

羽田国際空港より出国

3 写真

	
12月9日 東京都市大学 工学部 電気電子工学科 教授 佐々木三郎氏によるセミナー（東京都）	12月9日 セミナー質疑応答（東京都）
12月9日 東京都市大学 工学院 電気電子工学科 佐佐木三郎教授做专题讲座（東京都）	12月9日 講座提问（東京都）
	
12月9日 東京都市大学訪問（東京都）	12月9日 東京都市大学訪問（東京都）
12月9日 访问东京都市大学（東京都）	12月9日 访问东京都市大学（東京都）
	
12月9日 歓迎会 中国高校生パフォーマンス（東京都）	12月10日 紀州漆器伝統産業会館見学（漆器蒔絵体験）（和歌山県）
12月9日 欢迎会 中国高中生表演节目（東京都）	12月10日 参观纪州漆器传统产业会馆（体验描金画）（和歌山县）

	
12月10日 大分ソーラーパワー視察 (大分県)	12月10日 金刀比羅宮見学(香川県)
12月10日 考察大分太陽エネルギー (大分県)	12月10日 参観金刀比羅宮神社(香川県)
	
12月11日 黒潮市場見学(和歌山県)	12月11日 和歌山県立日高高等学校 訪問・交流(和歌山県)
12月11日 参観黒潮市場 (和歌山県)	12月11日 访问和歌山県立日高高中并进行 交流(和歌山県)
	
12月11日 大分県立別府青山・別府翔青 高等学校訪問・交流(大分県)	12月11日 高松第一高等学校訪問・交流 (香川県)
12月11日 访问大分県立別府青山・別府翔青 高中并进行交流 (大分県)	12月11日 访问高松第一高中并进行交流 (香川県)

	
12月12日 農家民泊（滋賀県）	12月12日 農家民泊（滋賀県）
12月12日 农家民宿（滋賀県）	12月12日 农家民宿（滋賀県）
	
12月12日 福岡市民防災センター視察（福岡県）	12月12日 農家・漁家民泊（香川県）
12月12日 考察福岡市民防災中心（福岡県）	12月12日 农家、漁家民宿（香川県）
	
12月13日 水の歴史資料館視察（愛知県）	12月13日 名古屋城見学（愛知県）
12月13日 考察水历史资料馆（愛知県）	12月13日 参观名古屋城堡（愛知県）

	
12月13日 ホームビジット（福岡県）	12月13日 瀬戸大橋記念館見学（香川県）
12月13日 家庭訪問（福岡県）	12月13日 参观瀬戸大桥纪念馆（香川县）
	
12月14日 名古屋市立名東高等学校 訪問・交流（愛知県）	12月14日 名古屋市立北高等学校 訪問・交流（愛知県）
12月14日 访问名古屋市立名东高中并进行 交流（爱知县）	12月14日 访问名古屋市立北高中并进行交流 （爱知县）
	
12月14日 至学館高等学校訪問・交流 （愛知県）	12月14日 福岡市立福岡西陵高等学校 訪問・交流（福岡県）
12月14日 访问至学馆高中并进行交流 （爱知县）	12月14日 访问福岡市立福岡西陵高中并进行 交流（福岡县）



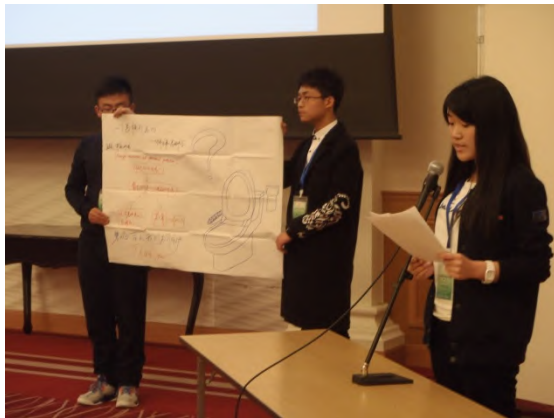
12月14日 金光学園中学・高等学校
訪問・交流（岡山県）

12月14日 访问金光学园中学高中并进行交流
（冈山县）



12月14日 ワークショップ（岡山県）

12月14日 分組討論会（岡山县）



12月15日 欢送报告会（東京都）

12月15日 欢送报告会（東京都）



12月16日 皇居・二重橋見学
（東京都）

12月16日 参观皇宫・二重桥（東京都）

4 参加者の感想（抜粋）

○今回、本当に幸運なことに、国による訪日交流活動に参加することができました。短い一週間ほどの交流でしたが、その中で数え切れない新しいものの見方、知識を得ました。特に重要なことは、国境を越えた友情が得られたことです。

初めは戸惑いや恥ずかしさがありましたが、英語が重要な仲介役を果たしてくれ、私達の交流は、すぐにスムーズになりました。授業が終わった後、突然 1 人のかっこいい男の子が私の前に現れました。彼は上手な英語を用い、自分が今日の私のパートナーで、M だ、と名乗りました。何より印象に残ったのは彼の笑顔です。上向いた口角、細めた目元が私の緊張と不自然さを消し去ってくれました。その後、私は日本の生徒と一緒に国語、数学、音楽の授業を受けました。そこで日本の授業の活発な様子や、日本の生徒の考え方、自分たちとの勉強方法の違いなどを知りました。私はこうしたカルチャーショックや、楽しい交流、素晴らしい歌声を楽しむと同時に、自分の勉強のやり方や、中国の授業には欠けているものに気付いたのです。帰国後は学習方法を改め、先生にも提案して、共に向上できるよう努力していきたいと思います。

同世代同士で半日交流したことで、私は生まれて初めて異国での友情を得ることができました。あの温もりに満ちた情景は、今もありありと私の目の前に蘇ってきます。

○日本を訪問するまで、私の日本に対する印象は薄く、よく知りませんでした。また、ここ数年両国間に生じた軋轢のため、心に偏見を抱くようになっていました。しかし今回の訪問を通じて、私はかなり真実に近い日本を知ることが出来たと思っています。日本人の普段の暮らしや、日本の高校生活を体験し、また、優れたインフラや人にやさしいデザインを目にし、日本人の親切さに触れ、民間の交流を通して、たくさんのものを得ることが出来ました。

最も忘れられないのはホームステイでの体験です。短い時間でしたが、深く心に残っています。農村の生活水準は都市とあまり差がないばかりか、環境が素晴らしく、交通も非常に便利でした。またそこには静かでのどかで心穏やかな人々の暮らしがありました。入村式では、皆さん私達を熱烈に歓迎して下さり、拍手はいつまでも鳴り止みませんでした。ある一人のおじいちゃんは、サントクロースの恰好をして、手には中国語で「歓迎します」と書かれたプラカードを二つも掲げておられました。家庭に着いてからは、伝統的な日本の家屋を目の当たりにしたり、庶民の食べ物「タコ焼き」の作り方を教わったり、畑の野菜や青々とした山林を眺めたりしました。人間と自然がよく調和した、素朴で穏やかな暮らしは、私達が知る「日本のアニメ」や、娯楽的にデフォルメされた、慌ただしい日本の姿とは異なるものでした。そして人々のこのように飾らないのどかな生活こそが、日本文化に宿る穏やかで美しい一面をより如実に表しているように思われました。

訪問後、私は本当の日本を知り、より客観的な見方ができるようになったと思っています。私が身近な人々に伝えなければならないのは、日本の民間の文化についてであり、中国人がこれまで抱いてきたイメージとは異なる本当の日本の姿です。日本はきわめて発展し繁栄している国、意識の高い人々が暮らす国、そして、素朴でごく当たり前の日々の生活が営まれている国なのです。私達がよく知っている日本のその背後には、庶民の暮らしがあり、人や物に対する礼儀作法、平和への希望、両国の友好への願い、こうしたことが人々の文化の中に息づいているのです。この独特な民族文化の魅力をもっと多くの中国人に知ってもらえれば、より一層の文化交流と両国の末永い発展に更に役立つのではないのでしょうか。

○ 私にとって最も心に残ったことは、やはりホームステイです。異国に身を置く私たちはここでぬくもりに触れることができたのですから。

私たちは午後いっぱい、畑で大根を引っっこ抜いたり、洗ったりしました。お父さんとお母さんはとても良い方々で、私達をあれこれ喜ばせようと、世話を焼いてくれましたので、すぐに馴染むことができました。寒い冬の田畑には、艶やかな緑は既に見当たりません。しかし、地面の下では命が激しく成長を続けていました。私は3歳の頃にも、一度母と大根を抜いたことがありました。その時の私は小さくて力も弱く、大根一本抜くのすらひどく苦労したものでしたが、今は違います。一本であろうが二本であろうが抜くのも「また楽しからずや」というものです。のどかで穏やかな時間が、まるで私の心の中の全ての傷や虚しさを埋めてくれるかのようでした。

お父さんとお母さんは、二人とも料理の達人でした。夕食時には私たちも手伝い、ごちそうを用意しました。食べるのも「また楽しからずや」です。

間もなく私は日本を離れようとしています。素晴らしい思い出ともお別れです。もっと多くの中国人が日本人と友達になり、より強固で、長きに渡る友情を打ち立てていけるよう願っています。

○ 帰国したら、次のことを周りの人達に伝えたいと思います。

日本の環境保護についてです。

特に印象に残っているのは、上下水道の仕組みです。上水道の浄水設備が完備し、いくつかの行程を経て、水が各家庭に供給されています。下水道は、汚水を集めるためのもので、生物濾過技術と地方公共団体の後押しにより、その目的を達成しているのです。その中でも特筆すべき特徴は、①導水管は自然の地形の高低差を利用して敷設し、できる限り電力使用を抑えていること、②濾過後に残った汚泥は、肥料や建材として利用価値の高い材料にリサイクルされていること、です。

家庭でも環境保護や省エネルギーに対する意識がとても高く、それが日本人の心の中にしっかり根付いているようです。ゴミの分別にしても、指定された期日に、一斉に収集が行われています。これは市民から政府に至るまで、社会の中でお互いの連携と協力がうまく機能している最たる例だと思います。お風呂に入るときは、家族が同じ湯舟を使うことで水資源の浪費を抑えているし、食事をするときは、残すことなく最後まで食べて、食べ物を無駄にしません。こうした事柄が、日本の民生事業を成功させ、家庭の雰囲気を良いものにしているのだと思いました。

○ 今回の訪日のテーマは環境保護と省エネルギーです。飛行機が東京に降り立ち、外の空気を吸い込んだとき、私は、日本の環境対策が素晴らしい成果を挙げており、この分野できっとたくさんの方の事柄が学べるに違いないと、心の底から感じました。

日本滞在中一番印象深かったのは、水の歴史資料館と浄水場の見学です。水は私達の命に欠かせない生命の源です。だから水資源の保護は最重要任務の一つでもあります。まず、水の歴史資料館では、上水用の水の中の汚泥は二つの方式でリサイクルされることを学びました。肥料と建築資材です。しかも汚泥で作った建築資材は、透水性に優れているということでした。また、日本では汚水の処理に微生物を使うことが多く、自然の力で水をきれいにし、他のエネルギーを使うことなく見事に省エネルギーを実行していました。処理済みの水道水を味わってみましたが、水道水が直に飲めるということが省エネルギーにどれだけ貢献しているかが分かりました。日本の上水処理システムには緩速と急速の二つがありますが、いずれの場合も電力システムの使用を極力抑え、自然の力で水を浄化し、市民に安心・安全な水道水を供給しています。このような技

術には本当に感心させられました。

中国は今、厳しい環境問題と資源の浪費に直面しており、特に大工業都市においては、人々は深刻な大気汚染に悩まされています。環境問題を改善するには、外国の進んだ考え方と技術を積極的に学ぶべきです。一学生として、周りの人達に、ゴミの分別収集と水資源の保護、それに節電に関する知識を積極的に広めていきたいです。日本で学んだ、進んだ考え方を中国へ、自分の学校や家庭へ持ち帰り、身近にいるよりたくさんの人達にゴミの分別に関する知識を伝えることで、私達の生活環境の改善に努力したいと思います。

○一番心に残っているのは日野町でのホームステイです。

日野町の方々はとても友好的で、私達のためにいろいろ準備して下さっていました。日本の民族衣装、着物を体験させてくれたのです。着物は着るのが大変で、目がくらむようでした。お茶を飲むにも細かい作法があって、お茶を掬ったりかき混ぜたりする茶道具、動作、正座の姿勢など、すべて決まりごとがあるのです。日本人は茶道を非常に尊重し、大切にしていると感じました。私達は、ホストファミリーと一緒に村を散歩したり、夕飯を作ったりして過ごしました。日本語が分からないので、英語を使ったり、身振り手振りや筆談、時には絵を描いたりしてコミュニケーションをとりました。一緒にかかるたや折り紙で遊んだことは素敵な思い出になりました。

短い交流の時間はあっという間に過ぎてしまいましたが、日本をより深く知ることができましたし、たくさん収穫がありました。今回の訪日は、私の中で最も印象深い思い出の一つとなりました。

○今回の訪日では、環境保護だけでなく、他の面でも印象的だったことが沢山あります。例えば、歓送報告会で日本側の来賓からいただいた、「自分のやりたいと思うことを頑張って発展させていって下さい」というメッセージに、賛同しました。帰国したら、私は今回のプログラムのテーマである環境保護を積極的に実践したいと思います。身を持って行動し、組織化し、周りの人々に環境保護への意識を持つことの必要性を伝え、環境保護の理念を実践します。また、日本人の仕事に対する熱意や、生活に対する愛情も、深く印象に残っています。

日本の高校生は、様々な課外活動に参加していました。学校は、学生の様々な面を伸ばすことに重きを置き、学生の資質教育に力を入れ、学生が楽しく学習し、本の上の知識に拘らず実践に力を入れるよう指導していました。日本人は、他人を尊重することをよく心得ていて、エレベーターの乗り降りでも、車の乗り降りでも、会釈をしている姿を目にしました。日本人が最もよく口にする言葉は、「すみません」か「ありがとう」です。このことから、日本人の文化レベルがよく分かります。

私は、日本の沢山の良い所を、周りの人にありのまま伝え、彼らに日本というこの文化レベルの高い偉大な民族のことを、改めて理解してもらいたいと思っています。私は心からの感謝の気持ちで、日本人の訪中を歓迎し、共に両国の友好の架け橋を作りたいと思っています。

○ホームビジットでは、ホストファミリーがとても親切で友好的で、子供たちは活発で無邪気でした。彼らのひとことひとことが私を温かい気持ちにさせてくれました。私も、手伝いながら一緒に美味しい料理を作り、様々なファミリーゲームで遊び、友情を築き、両国の国民の交流を強化することができました。翌日の学校訪問のことは、一生忘れられないと思います。資質の高い高校生が、両国間の政治上の見解などは忘れ、一生懸命、私達をサポートしてくれました。一緒に学び、食事をし、遊び、笑いました。数学の授業では協力して考え、送別会では大いに腕前を披露しました。他

の学生も私達に進んで挨拶をしてくれて、仲良くなりました。中日の青少年の深い友情を大いに強化し、両国関係を促進することができたと思います。

私は、日本で見たことをありのまま周りの人々に伝えて、中日両国の国民関係を改善し、両国の素晴らしい未来のために、できる貢献をしたいと思います。

○印象深かった事：日本人の自然との共存、調和。大分県では、山を背に海を臨む美しい自然風景を見て、また同時に東京都市大学では科学の発達も目にして、とても驚きました。この両者が共存していることの貴重さ、重要さ。これらが完成された前提には、環境理念が人々の心に深く根付いていることがあります。つまり、日本人の資質レベルは相当高いのです。

周りに伝えたい事：日本人が親切で友好的なこと、科学技術レベルがとても高いこと、国民の教養が高いこと、文化に特色があること。私達は、例えば中国を訪れる日本人を友好的にサポートする等、中日の友好のためにできる努力をしなければなりません。周りの皆に、アジアのこの太陽を見せて、彼らにも日本を好きになってほしいと思います。

○まず伝えたいことは、日本人の親しみやすさと温かさです。この数日間、いつでもどこでも、出会った人々は、皆笑顔であいさつをしてくれました。笑顔は最高の言葉なのです。言語という壁があっても、このような優しい笑顔は、私達の間にある壁を溶かしてくれ、温かな気持ちにさせてくれました。ホームステイでは、ホストファミリーのおばあちゃんが、私たちのために心を尽くして料理を用意してくださり、たえず私たちに気遣いしてくださり、私たちの失敗をとがめることはありませんでした。お別れする時、おばあちゃんの慈愛溢れる笑顔に涙をこらえられませんでした。学校訪問では、先生や生徒の皆さんが温かく私たちを迎えてくださり、文化について話し合ったり、一緒にお昼ご飯を食べたり、授業を受けたりしました。楽しく談笑する声がキャンパスと私たちの心に満ちて、私たち全員に温かな気持ちが広がりました。

この温かさは、私たちの心の一番大切なところにずっと大切にしまっておきます。

○今回の訪問はとても楽しいものでした。日本での数日間は、私の視野を広くし、たくさんのものを学び、知ることができました。日本の社会環境や文化環境はとても素晴らしく、道にはゴミもなく、空気はきれいで清々しく、どの家の玄関先にも花や植物があり、ロマンティックで素敵な文化的雰囲気があふれ、環境が整備されていました。私達はゴミ処理施設を見学しましたが、資源の再利用率が 100%に達していることに驚かされました。このように資源に乏しい小さな国の持つ先進的な技術や強い環境保護への意識は、私達が学ぶべき大きな価値があります。帰国したら私の身の周りの友人や家族に、日本の環境保護の理念を紹介し、より多くの人にこれを伝え、環境保護のための実際の行動をするつもりです。

学校交流も、深く印象に残っています。私達は二つの学校を訪問しましたが、先生方、生徒の皆さんとも、とても温かく友好的でした。言葉は通じなくても、友情には国境はなく、交流はとても楽しいものでした。特に同年代同士なので、共通の趣味など話題も豊富で、メールアドレスを交換しました。一人の男子生徒はわざわざ、中国の QQ というアプリをダウンロードしてくれ、友達として承認しあい、交流を続けられるようになりました。お互いの、上気して赤らんだ顔と嬉しそうな笑顔は、密接にコミュニケーションができた証です。私達はたくさんの日本の友達ことができました。中国と日本の未来は私達の世代でもっと仲良くなると信じています。

日本についたばかりの時、日本の先生が日本人はウィークデーにはあまり自家用車で出かけないと紹介してくれました。佐々木三郎先生の講義を聞き、日本の省エネルギーに関する意識と管理に注力していることを理解しました。私の学校でも、文学クラブの発行する文集に投稿したり、校内放送番組を実施したりして、日本の省エネルギーや環境保護についての進んだ考え方を紹介し、私達の国を更に強く発展させたいです。

○日本に来る前は、日本の文化の奥深さと、地震対策や防災の救急措置についてくらいしか、聞いたことがありませんでした。今回の訪問で、日本についてより多くの知識と理解を深めることができました。

日本の街のあちこちに、様々な種類の標識やマークがありました。例えばビルの中の避難出口の標識、ビルの窓にある赤い三角形の非常用消防隊進入口のマークなど、至る所に日本人の厳密さ、真面目さが表れていました。

同じように深く感じたことは、日本の宗教文化についてです。神社というものは日本人の精神のよりどころです。中日関係が緊張した原因であり、中国人のほとんどは神社というものを誤解していますが、溶かせない氷の川はないのです。両国の宗教についてのコミュニケーションが両国関係の発展のスタートとなることも大いにあり得ると、私は信じています。

帰国したら、私は多くの人に日本の伝統文化や現代の文化の紹介をしようと思います。私はできる限りの努力を尽くして、皆の日本に対する偏見や誤解を解き、周りの人を率いて中日友好の発展を導く方向指示器になりたいです。

両国の友好的な発展が継続していくことを心から希望します。この世に真の友好と平和が存在することを祈ります。